

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 24 年 9 月 13 日 (2012.9.13)

【公開番号】特開 2012-145222 (P2012-145222A)
 【公開日】平成 24 年 8 月 2 日 (2012.8.2)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-030
 【出願番号】特願 2012-237 (P2012-237)
 【国際特許分類】

F 1 6 D 13/64 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 13/64 B

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 2 月 2 日 (2012.2.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両のエンジンとトランスミッションの間の選択的な連結を有効にするクラッチ装置に使用されるクラッチディスクであって、

エンジンに連結可能な第 1 振りディスク (2) と、

該振りディスク (2) に強固に連結される第 2 保持ディスク (3) と、

車両トランスミッションに連結可能なハブ (6) と、

中央貫通孔を有し、前記中央貫通孔に前記ハブ (6) の外周の突起 (61) と係合し前記突起 (61) より広い領域の凹部 (41) が形成されたフランジ (4) と、

前記フランジ (4) は、第 1 振り振動減衰装置を形成する少なくとも 1 つの減衰弾性要素 (5) により前記第 1 と第 2 のディスク (2, 3) に連結されるとともに、第 2 振り振動減衰装置 (7) により前記ハブ (6) に連結されたクラッチディスクにおいて、

前記第 2 振り振動減衰装置 (7) は少なくとも 2 つの前減衰弾性要素 (70) と少なくとも 1 つの自己芯出しリング (8) とからなり、

前記自己芯出しリング (8) は、中央の貫通孔 (81) の周縁に形成した凹部 (82) が前記ハブ (6) の外周の突起 (61) と係合して前記ハブ (6) に接続され、一側で前記フランジ (4) と接触し、他側で前記第 1 振りディスク (2) と接触し、

前記前減衰弾性要素 (70) は、前記フランジに形成された貫通穴からなる第 1 空間 (40) に配置されるとともに前記自己芯出しリング (8) に前記第 1 空間と一致するように形成された凹部からなる第 2 空間 (80) に配置された前減衰螺旋スプリングの形態であり、

前記自己芯出しリング (8) は、前記フランジと前記第 2 保持ディスク (3) の間に配置された弾性要素 (71) により前記第 1 振りディスク (2) の方向に付勢されていることを特徴とするクラッチディスク。

【請求項 2】

前記前減衰螺旋スプリング (70) は、前記クラッチディスクの駆動軸の直交面の半周が前記フランジの第 1 空間 (40) の壁と接触し、他の半周が前記自己芯出しハブ要素 (8) の空間 (80) の壁と接触していることを特徴とする請求項 1 に記載のディスク。

【請求項 3】

前記自己芯出しリング (8) は、裁頭円錐形を有する請求項 1 又は 2 に記載のディスク

。

【請求項 4】

前記自己芯出しリング（８）は、お互いに 90 度だけずれて配置された 4 つの第 2 空間（８０）を含み、その 180 度だけずれた 2 つの空間（８０）は第 1 長さ寸法と異なる第 2 長さ寸法を有する請求項 1 から 3 のいずれかに記載のディスク。

【請求項 5】

前記前減衰弾性要素（７０）は、前記第 2 空間（８０）に配置された 4 つの前減衰スプリング（７０）からなることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載のディスク。

【請求項 6】

前記挟りディスク（２）は前記自己芯出しリング（８）と協働する裁頭円錐形状領域（２０）を有し、前記リング（８）は前記弾性要素（７１）により前記領域（２０）に対して付勢されている請求項 1 から 5 のいずれかに記載のディスク。

【請求項 7】

前記減衰弾性要素（５）は、お互いに 90 度だけずれて配置された螺旋スプリングの形態の 4 つの減衰弾性要素（５）からなることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれかに記載のディスク。